

単元案の概要

単元名: 自分に合う大学診断チャートプロジェクト					
科目名	自分に合う大学 診断チャートプロジェクト	作成日	2017年1月23日	作成者	F班
学年/年次	高校2・3年生(中国)	クラス人数	12人	使用教材	大学パンフレット・HP、チャート作成ツール
話題分野	学校生活、住まい、 交通と旅行、その他	言語レベル	3	必要時間数	45分×10コマ (およびカリキュラム終了後の作業時間)
単元目標					
①大学選びの基準を考え、大学診断チャートをWeb上のツールを使用して作成できる ②作成した診断チャートの良さをアピールし、今後留学する後輩に活用してもらうことができる ③自分自身の将来の日本語学習計画を意識できる					
コミュニケーション能力指標					
【学校生活】 3-c 大学の特徴について、口頭で紹介しあうことができる 3-e 大学の学校案内を読んで、概要を理解できる 【住まい】 3-d 住居やその周辺環境として望ましい条件は何かについて、話し合うことができる 3-e 大学の寮などの施設の使い方や建物の設備、器具の使い方や注意点について書かれた文章を、読んで理解できる 【交通と旅行】 3-a 目的地までのアクセス方法を尋ねたり、説明したりできる 3-b 留学先の市町村の案内プレートや説明文・ガイドブックの大意を理解できる 3-c 旅行ガイドの説明を、聞いて大意を理解できる 3-e 将来行きたい所やお勧めの留学先について、理由を含めて語り合うことができる 【人とのつきあい】 3-c 相手の年齢や立場を配慮して、メールを書くことができる 3-g インターネット・電話・ファックスの使用に関する指示を聞いて理解できる 【行事】 3-d 日本の行事の過ごし方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる 【地域社会と世界】 3-b 都市や町について書かれた文章を、読んで大意を理解できる 【自然環境】 3-a 自然現象・自然災害に関する文章を、読んで大意を理解できる					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
①Web上や雑誌にある性格診断などのチャートを実際に体験し、活動方向とゴールを意識する ②大学に関連する語彙・表現(シラバス、学費、チューター)などの語彙リストを作成する ③日本の大学や、その大学に留学していた先輩から情報収集するための、問い合わせメールを作成する			<場面状況> 中国には日本の大学に留学する意欲が高い高校生たちが多くいる。大学選びの際には授業内容や奨学金の有無などの他、私立大学か国立大学か、方言はあるか、そこが都会か田舎か、気候はどうかなど様々な基準があるが、高校生たちは実際にはどのように大学を選んでよいかわからない現状がある。		
			<活動の流れ> 3人1グループになり、①関東国立大学、②関東私立大学、③関西国立大学、④関西私立大学の4グループに分かれて、それぞれの条件の大学を調査する。その際、大学や先輩から情報収集をし、大学を選ぶ際の基準をさまざまな視点から検討する。各グループがそれぞれ診断チャートを作成し、最終的にはクラスでひとつの大学診断チャートにまとめる。Web上にチャートを公開、その良さをアピールし、日本の大学に留学したい後輩たちに活用してもらう。		
評価活動					
形成的評価			総括的評価		
・大学比較表の発表 ・成果物「大学比較表」			※別途ルーブリックを作成してください		

3×3+3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 日本の大学情報についての日本語がわかる。 大学への問い合わせメールの日本語表現がわかる。 発表で使う日本語がわかる。 診断チャートを作成するための日本語がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の大学の特徴がわかる。 日本の大学と中国の大学の違いがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本にいる先輩や、これから日本に留学する予定の先輩とコミュニケーションをとることで、異文化環境での生活がどのようなものであるかがわかる。 診断チャートを作成することがわかる。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 日本の各大学の基本情報を説明することができる。 大学の違いや特徴など、パラメーターを通して説明することができる。 大学への問い合わせメールを書くことができる。 診断チャート作成するために、質問を書いたり、診断チャートの良さをアピールしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の各大学の違いや特徴などを調べて分析することができる。 大学の環境に対する理解を深めることができる。 大学をどう選ぶかを様々な視点から分析することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で意見交換したり、役割を分担してプレゼンテーションを上げることができる。 大学のパンフレットやホームページ、様々な資料を収集して各大学の特徴を説明することができる。 大学の情報をまとめてチャートを作成することができる。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> 先輩に大学のことについてインタビューをするときに、先輩とつながることができる。 診断チャートの作成が完成したら、後輩に活用してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の先輩や日本の大学と交流することで、ほかの文化背景を持つ人々と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 診断チャート作成で日本にいる先輩たち、これから日本に留学する後輩たちとつながる。
三連携	<p>【学習者】自ら大学のことを調べることで、進学意識や自立学習、グループワークの活動につながる。</p> <p>【教室外】先輩にインタビューしたり、後輩に活用してもらったり、web 上にアップしたりすることによって、いろいろな人とつながる。</p> <p>【他教科】歴史や地理の教科と連携する。パソコンソフトの使用。</p>		

総合的評価のルーブリック

→レベル	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
↓評価要素				
情報を正確に 伝えられたか	新しく得た全ての情報を 正確に間違いなく、分かり やすく後輩に伝えられる。	新しく得た情報を後輩に 伝えられる。	新しく得た情報を後輩に 伝えられるが、伝わらない 箇所もある。	新しく得た情報を後輩に うまく伝えられていな い
日本語表現と質問が自然 だったか	日本語表現や質問が非 常に自然である。	全体的に自然な日本語 の表現が多く、わかりやす い。	日本語表現や質問が不 自然で分かりにくい部 分がある	日本語表現や質問が自 然ではない部分が多い
発表態度	発表態度が非常に良い。 発表も非常に分かりやす い。	発表態度が良い。 発表も分かりやすい。	発表態度、発表分かりや すさ、どちらかができてい ない。	発表態度が悪く、発表も 分かりにくい。
診断チャートが使いたいと 思える魅力的なものだっ たか	使いたいと思える魅力的 なものであり、周りの人に も勧めたい。	使いたいと思えるものであ る。	使ってみたいと思えるが、 情報が不足している部分 がある。	魅力がなく使いたいと思 えない。不足部分が非常 に多い。